

## 都於郡城(浮船城)(国の史跡)(西都市大字鹿野田字高屋)

都於郡城(とのこおりじょう)は現在の宮崎県西都市にあったとされる山城。築城は1337年(建武4年)伊東祐持による。別名、浮船城。

### 歴史

都於郡城は南北朝時代から安土桃山時代にかけて日向国に割拠した伊東氏の城の一つ。

1335年(建武二年)、足利尊氏より都於郡三百町を賜って日向に下向した伊東本宗家の祐持による築城といわれ、一国人領主にすぎなかったころよりの本拠でもある。

城は高さ100mの丘陵に築かれた本城、周囲に支城(日隠城、東城、泉城、高城、向城)を配し、その間を堀や池を巡らすという中世式城郭の典型的な様式である。なお本城から峰続きに1.3キロ東方に日隠城があり、大規模な城域を誇る威容は、西国でも有数のものであった。本城は本丸、二ノ丸、三ノ丸、奥ノ城、西ノ城といった五つの曲輪から成り立っている。

祐持の子祐重の代に大修築が加えられた。『日向記』によれば、「夫より都於郡を經營せんとして弥(いよいよ)家風を定む。大形の指図様体究つて、先普請に可入。具足或(あるいは)鍛冶番匠を召集め夜を日に續て急ぎけり。弥精力を励まし吉日を撰て御移住なり。其外、先規の如く馳集(つどい)て門前に市をなす。近習、外様、馬廻以下の屋敷割有しかばさしにも広き山上山下も更になかりけり」とある。

城は幾度かの兵火に焼けたが、1504年(永正元年)3月21日、城中からの失火によって城外まで延焼し、建物器物の大半を消失したこともあった。

伊東氏は後に日向国の大半を領して、伊東四十八城と呼ばれる48の城を持ったが、都於郡城は佐土原城とともにその本城として栄える。1577年に伊東氏が島津氏により一時没落すると島津氏の支配下に入った。1615年(元和元年)江戸幕府の一国一城令により、都於郡城は廢城となった。

### 現在

2000年に国の史跡に指定され、2001年より整備に伴う遺構確認調査が実施されている。

Wikipediaによる



